

今号は前回に引き続き、線過去の用法を扱います。まずは前回扱った用法と例文を確認しましょう。このページの右下の囲みを見てください。

「1. 継続」、「2. 習慣(反復)」、「3. 未遂」までが、前号で扱った用法です。

さて、4つ目の用法は「婉曲」です。婉曲とは物事を遠まわしに言うことです。直接的表現を避けて現在や未来のことをあえて線過去を使っていう用法です。「丁寧・謙譲の未完了過去」(imperfecto de cortesía y modestia)です。代表的な例として querer のものを挙げます。querer だけの場合も「querer + 不定詞」の場合もあります。

¿Qué quería?

何をお望みでしたか?

-Quería una chaqueta de piel.

革のジャケットが欲しかったのですが…。

Quería hacerle una pregunta.

あなたに質問させて頂きたかったのですが…。

日本語にもこれに近い表現があります。いわゆる「接客過去」です。例えば、「ポテトはよろしいですか?」の代わりに「ポテトはよろしかったですか?」とあえて過去で訊かれることはよくありますよね。「バイト敬語」とも言います。

また「丁寧」の用法に近いものに「思い出し」用法があります。例えば、あなたが先月のパーティーで知り合った人とどこかで再会したとします。でも名前がどうしても思い出せません。そんな時、「¿Cómo te llamas?」では失礼だし、不自然です。

Perdona, ¿cómo te llamabas? María...

ゴメン、名前は何だったっけ? マリア…

-María Luisa Gómez. Y tú eras José García de Derecho, ¿no?

マリア=レイサ・ゴメス。あなたは法学部のホセ・ガルシアだったよね。

このように線過去を使って言うのとよいでしょう(けっして昔の名前を尋ねているわけではありません)。「～だったっけ」用法と覚えてください。もう1つ例文です。

¿Mañana a qué hora salía nuestro tren bala para Tokio?

明日の東京行きの新幹線は何時出発だったっけ?

明日のことを話しているので実際には salir は未来に言及しています。しかし、線過去を使うことによって聞いたけど忘れてしまった感を出すのです。線過去が動作の終わりを曖昧にする性格をうまく利用した用法と言えるでしょう。このように線過去は過去でありながら現在や未来にまで言及することができる過去です。過去を越えているという意味で「超過去」「スーパー過去」と呼んでもいいかも知れません。

線過去にはまだまだ他の用法がありますが、中級の学習者にはこまめでよいと思います。次に点過去と線過去の違いをわかりやすくするために比較を試みましょう。例を挙げます。

A los 20 **tuve** mi primer hijo.

20歳で私は最初の息子を得た(生んだ)。

A los 20 años ya **tenía** dos hijos.

20歳で私は既に2人の息子がいた。

この場合、点過去 **tuve** だと「持った」、線過去 **tenía** だと「持っていた」という意味になります。

saber や conocer も点過去と線過去とでは意味が違ってきます。

**Conocí** a Teresa en esa fiesta, pero ya **conocía** a su hermana.

そのパーティーでテレサと知り合ったが、既にその妹とは知り合いだった。

つまり、点過去の場合は「知る」ことが完了したことを表し、線過去の場合は「知る」ことが完了した後その「結果が継続」していることを表しています。

さて、動詞の中には過去では点過去は使われず線過去のみで使用されるものがあります。まず、時刻の表現での ser です。

Eran las 10:00 de la noche. ×Fueron...

夜の10時だった。

次に時間経過を表わす llevar と hacer も線過去でしか使いません。

Manuel **llevaba** 2 años estudiando español. ×Llevé...

マヌエルはスペイン語を勉強して2年であった。

**Hacia** 10 años que no volvía a mi pueblo natal.

私が生まれた村に帰らないで10年が経っていた。

«acabar de + 不定詞» 「～したばかりである」も線過去専用です。

Como **acababa de llegar** de México, aún no tenía dólares.

メキシコから到着したばかりだったのでまだドルは持っていなかった。

最後は、«soler + 不定詞» 「～したものである」を挙げます。線過去で「習慣」を表すことができますが、さらにこの意味をはっきりとさせたいときに使用するとよいでしょう。

Cuando era niño, yo **solía jugar** al fútbol todos los domingos.

子どもの頃毎週日曜日サッカーをするのが常だった。

さて、前号から見てきた線過去の用法全体を最後にまとめてみましょう。

1. 継続

a) 状況説明

**Era** una noche oscura.

b) バックグラウンド(線過去+点過去)

Cuando yo **estudiaba**, me llamó una amiga.

c) 平行進行(線過去+線過去)

Mientras yo **cocinaba**, ella veía la tele.

d) 過去の現在(主節+線過去)

Lucía me dijo que **tenía** muchos exámenes.

2. 習慣(反復)

Cuando era niño, yo **jugaba** al fútbol todos los domingos.

3. 未遂

Cuando ya **despegaba** el avión, el piloto encontró una avería grave y ...

4. 婉曲

a) 丁寧

**Quería** una chaqueta de piel.

b) 思い出し(「～だったっけ」)

Perdona, ¿cómo te **llamabas**?

線過去は日本語話者にとって理解しにくい形ですが、スペイン語の表現を豊かにする重要な道具ですからぜひマスターしてください。多くの例文を覚えられることを勧めます。¡Hasta la vista!



仲井 邦佳 なかいくによし / Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習』(共著、同友社)などがある。